

III 連携協力事業

宮崎市教育委員会との連携協力

宮崎市教育委員会との平成29(2017)年度連携協力事業については、以下のとおりである

1 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 1名（4年生 1名）
- (2) 活動期間 半年間

2 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 6名（3年生 6名）
- (2) 活動日数 1年間

3 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 1名（4年生 1名）
- (2) 活動期間 半年間

4 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 6名 (3年生 6名)
- (2) 活動日数 1年間

5 第11回ひむかかるた競技大会

平成30年2月17日(土) 宮崎公立大学体育館において開催した。

- (1) 目 的 宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
- (2) 主 催 ひむかかるた協会
- (3) 共 催 宮崎市教育委員会
- (4) 後 援 宮崎県教育委員会
- (5) 協 賛 宮崎中央ロータリークラブ
- (6) 競技種目 団体戦・個人戦
- (7) 参加資格 小学生の部 県内小学校に在籍する小学生
幼児の部 宮崎市内保育園児・幼稚園児

詳細は 87ページに掲載

6 その他の活動

宮崎西中学校における学校支援ボランティア

① サマースクール支援（夏季休暇中）：13名参加

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行った。

② 英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行った。

(1) 11月： 8名参加

(2) 2月： 5名参加

<宮崎県教育委員会主催事業>

スクールトライアル事業への参加（短期：3日間）

昨年度に引き続き、教員を目指す2年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供した。

(1) 総 数 23名（2年生 23名）

(2) 受入学校 県内の中学校、高等学校

(3) 活動日数 3日間

行事名	第 11 回 ひむかかるた競技大会
目的	宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
実施日時	平成 30 年 2 月 17 日（土）午前 9 時～午後 4 時
会場	宮崎公立大学 体育館（宮崎市船塚 2 丁目 184 番地）
主催	ひむかかるた協会
共催	宮崎市教育委員会
後援	宮崎県教育委員会
協賛	宮崎中央ロータリークラブ
競技種目	個人戦、団体戦
参加資格	小学生の部 県内在住の小学生 幼児の部 市内保育園児・幼稚園児
参加人数 (チーム)	15 小学校より、団体戦、個人戦合計 113 名。
参加者数	選手 113 名。 来賓、観客も含め約 300 名。
参加者負担	（参加料） 無料
資料等	団体戦各小学校・幼稚園・保育園 3 チーム、個人戦 3 名までとする。
競技方法	団体、個人それぞれ当日抽選を行い、予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦を行う。
競技規則	別に定める「ひむかかるた大会競技規則」による
審判	競技規則に基づき公認審判員が努める。
表彰	1～4 位を上位入賞者とし、表彰する。また参加選手全員に参加賞を授与する。

【競技のもよう】

- ・市内 15 小学校から、団体戦 29 チーム、個人戦 26 名の合計 113 名の選手が参加し、盛況のうちに無事大会を行うことができた。本年度より、宮崎公立大学が直接管轄する地域貢献活動枠を離れ、公立大、市教育委員会の支援の下、ひむかかるた協会が自立して行う活動となつたが、小学生、中学生審判の導入や引率者の大会運営への参加など、新しい試みも導入され、まずは順調なスタートを切ることができたと考える。
- ・午前 9 時 30 分より開会式が行われた。来賓として二見俊一宮崎市教育長が臨席した。
- ・10 時より試合開始。昼休憩(12 時～13 時)をはさみ、午前中は予選リーグ 3 試合、午後は決勝トーナメント 4 試合が、それぞれ団体戦、個人戦同時並行という形で行われた。
- ・第 11 回目を迎えた今年度であったが、参加校数は昨年度と比べ 2 校増の 15 校となり、選手数も増となった。一方昨年度 2 園、4 チームが参加して行われた「園児の部」は、残念ながらインフルエンザ等の事情から中止となった。
- ・試合では昨年同様、あるいはそれを上回るハイレベルな技の攻防が相次いだ。特に午後の決勝トーナメントでは、例年ない白熱した試合が展開された。選手たちが日ごろからかるたに真剣に取り組み、一層の技量アップを果たしていることが確認できたと考える。
- ・小学校の部では、団体戦は宮崎大学附属小学校 B チームが初制覇を果たし、個人戦では水田心花選手(江平小)が優勝した。

【今大会の特徴】

① 運営・演出面

- ・昨年、一昨年と好評だった BGM による演出は今年も行われた。特に昨年シンガーソングライターの大野勇太氏に作詞・作曲を依頼した「ひむかかるたの歌」をイメージソングとして随所に流すことで、大会全体のまとまりを作りをすることができた。
- ・また、大会運営に当たっては、本年度も宮崎公立大学の「ひむかメディアアクション」部に大会の事前広報活動（宣伝パンフレット、新聞形式のかるた通信(計 2 回)等の宣伝メディアの発行、配布）や当日の運営の主要業務を担当していただいた。昨年度に引き続き、大会の様子をまとめた「ひむかかるた通信」第 10 号を年度内に発行し、市内各校をはじめとした関係各方面への配布を行うことができた。卒業を控えた 6 年生児童にも確実に届けられ、活動の宣伝に大いに貢献していただいたと感謝している。
- ・本年度は昨年度実験的にとりいれた子供審判員制度を本格的に導入した。大会には、審判試験に合格した児童からコート審判として参加した。また、小学校時代にひむかかるた大会出場経験のある中学生も加え、小中学生子供審判団として大会を盛り上げた。勝負の判断力、試合の流れを作る能力とも、大学生審判員と比べても何ら遜色はなく、素晴らしい審判ぶりであった。
- ・また、今大会では試合進行役を引率の小学校教諭の先生方にお願いしたり、読み手を大塚小学校放送部の児童にお願いしたりと、小中学生および教育関係者から多数運営に参加していただいた。従来の「公立大のひむかかるた」というイメージに加え、「子供たち及び先生たちのひむかかるた」としての顔も見せ始めたと感じている。
- ・単純明快なルールによるひむかかるたは、いろいろな意味で子供たちにも取り組みやすく、審

判、あるいは運営スタッフとして試合に参加することは、選手として勝負を争うこととはまた違った喜びを与えるようである。大会の充実とかるた普及への効果を期待して同制度を充実したものとしていきたい。

② 参加学校について

- ・小学生の部における参加校数については、昨年度の13校から微増し15校となった。今後何らかの強化策が必要であると考える。今大会の参加はかなわなかつたものの、日ごろからかるたに取り組んでいる学校は、現状では市内だけでも20を超えており、大会参加校数拡大の可能性は十分にあるものと考える。第10回大会をもって宮崎公立大学が直接管轄する地域貢献活動としては終了になるが、「ひむかかるた協会」を中心に第11回大会以降も継続して行っていくことが決定しており、平成29年度以降、新たな体制の中でより魅力的な大会づくりを進めていく所存である。

③ 教育研究を軸としたかるたの普及活動（「ひむかかるた教育研究会」）について

- ・昨年度立ち上げた「ひむかかるた教育研究会」（会長・中武）については、6月、11月に開催し、ひむかかるたを用いた教育プログラムの研究や、指導方法の研修などを行うことができた。
- ・とりわけ11月8日に行った研究会は、市の小社研研究会に組み込んでいただき、大塚小・佐多教諭による研究授業と事後研究会に30小学校・32名の参加をいただくことができた。
- ・前述のようにひむかかるたを取り上げている小学校は、現状市内だけでも20を超えている。また平成28年度協力事業に何らかの形で協力いただいた小学校は15校にのぼる。常日頃の普及活動においては、同研究会を軸に各学校との関係強化を図ることでこれらの小学校を拠点により大きなかるた普及の流れを作ることが重要であると考える。

【今後に向けて】

- ・前述のように、本年度は「ひむかかるた協会」を中心に、市教育委員会、宮崎公立大学の強力な支援を仰ぎながら、従来と変わらぬ活動を続けていくことができた。宮崎公立大学から、地域への地域貢献としてスタートした事業が、10年を経て地域に根付き、地域と公立大が連携して行う活動へと育ちつつあることを実感している。
- ・事実、本年度は大会開催以外にも、新しい発展への足掛かりとなる活動をすることができた。具体的には、ひむかかるたを用いた小学校教育の可能性について、昨年度に引き続き教育現場にて本格的に取り組んでいたき、様々な可能性を見出すことができた。「ひむかかるた教育研究会」（会長・宮崎歴史文化館中武副館長）や、宮崎公立大学共同研究プロジェクトシンポジウムでは、現場の先生方を交え、実際の取り組み事例をもとに議論を深化させることができた。結果として、様々なメディア機能のみならず、かるたをツールとした郷土教育の思想的位置づけについても議論を進めることができた。
- ・次年度以降もこの方向性を模索しながら、かるたの普及に努めていきたいと考える。これまでの活動において市教育委員会および各小学校との間に作ってきた協力関係をベースに、宮崎公立大の支援もいただきつつ、より多くの子供たちを巻き込む活動として発展させていきたい。
- ・ひむかかるた関連事業は、平成30年度には11年目を迎える。これまで活動を発展的に継続できたことに関して、関係各位には厚く御礼を述べるとともに、これからも変わらぬご尽力を賜るよう、切にお願い申し上げる次第である。

文責・梅津 順一郎（本学人文学部准教授、ひむかかるた協会会长）

競技風景

●小学生選手 113 人が参加した予選リーグ



●決勝トーナメント



●子供審判の活躍



●表彰式



宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力

平成 29(2017)年度業界研究セミナー講師派遣 (宮崎銀行)

本学が実施した業界研究セミナーに、行員の講師を派遣していただいた。

(1) 実 施 日 平成 29 年 12 月 12 日 (火)

(2) 参加者数 27 名

平成 29(2017)年度インターンシップへの参加 (宮崎銀行)

※ 公募

* 夏期インターンシップ 12 名

平成 29(2017)年度インターンシップへの参加 (宮崎太陽銀行)

※公募

* 夏期インターンシップ 5 名

宮崎商工会議所との連携協力

1 みやざき観光・文化検定

宮崎商工会議所が主催して実施した「みやざき観光・文化検定」に対して、次のような連携協力を行った。

- ・試験会場として学内施設を提供（平成 29 年 12 月 17 日実施）

2 日商簿記検定

日商簿記検定の試験会場として、学内施設の提供を行った。

- ・第 146 回検定 実施日：平成 29 年 6 月 11 日